

平成18年度第3回理事会議事録

日 時 平成18年7月12日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

森会長、長沼副会長、佐治副会長、岡崎専務理事、石川常務理事、
泉常務理事、森常務理事、尾崎、監物、斉藤、坂本、篠宮、鈴木、
瀬尾、竹田、武田、豊島、中山、古川、松田、渡邊の各理事

<委任>

石樽、大谷、木下、小嶋、樋口、御手洗の各理事(議長に委任)

<監事>

市川監事

理事総数27名、うち出席21名、委任6名、計27名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

議案に先立ち、(財)ミズノスポーツ振興会より本会に対する寄附金の贈呈が行われた。また、去る6月21日開催の評議員会において寄附行為第23条第2項第3号に定める「会長が推薦する学識経験者」として、スポーツ振興資金財団会長の御手洗富士夫氏、都道府県体育協会連合会会長の坂本祐之輔氏が理事に就任したことを報告。坂本理事より自己紹介がなされた。

議 案

第1号 第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会及び

第64回国民体育大会開催地(新潟県)の決定について(泉委員長)

第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会及び第64回国民体育大会の開催地については、既に新潟県に内定しており、本年は決定の年にあたる。

決定に先立ち、去る6月2日、本会と文部科学省により新潟県の準備状況を総合的に視察した結果、開催3年前の準備状況としては順調に進んでいる。

会期については、各種競技会、気象状況を勘案し、関係機関及び団体等と協議、調整した結果、第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会については、平成21年2月17日(火)～2月20日(金)までの4日間、また、第64回国民体育大会については、平成21年9月26日(土)～10月6日(火)までの11日間とした。

本件については、去る6月16日開催の国民体育大会委員会の議を経て、文部科学省の了解など必要な手続きも終了している旨を資料に基づき説明し、第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会及び第64回国民体育大会

の開催地として新潟県を決定したいと諮り、満場一致で承認。

決定後、森会長から関根新潟県副知事に開催決定書が手渡され、関根副知事より謝辞が述べられた。

第2号 第66回国民体育大会開催地（山口県）の内定について（泉委員長）

第66回国民体育大会の開催地として、既に開催申請書提出順序が了解されている山口県より、本会及び文部科学省に対して開催申請書が提出された。関係競技団体の視察も概ね終了し、一部競技において会場等の調整の必要があるものの、全体的には開催5年前としての準備は順調に進んでいるものと認められ、去る6月16日開催の国体委員会の議を経て、文部科学省の了解など必要な手続きも終了した。

については、第66回国民体育大会の開催地として山口県を内定したいと諮り、満場一致で承認。

内定後、森会長から綿屋山口県副知事に開催内定書が手渡され、綿屋副知事より謝辞が述べられた。

第3号 平成19年度国及び公営競技団体等への補助金・助成金の要望について（岡崎専務理事）

平成19年度国及び公営競技団体等への補助金・助成金の要望については、現在要望額を取りまとめ中であり、政府においても概算要求基準が未定であり、文部科学省とも充分調整されていない状況にある為、要望額を資料として示すまでに至っていない。

については、国庫補助金については、今後公表される概算要求基準を踏まえ、文部科学省とも折衝し、要望額を固めていくこととなる。

また、公営競技団体並びにスポーツ振興基金、スポーツ振興くじ等への補助金・助成金の要望については、国庫補助金要望額が固まり次第、内容を固めていきたい旨を説明し、平成19年度の国庫補助金及び公営競技団体並びにスポーツ振興基金、スポーツ振興くじ等への補助金・助成金の要望については、会長に一任願いたいと諮り、これを承認。

第4号 第1回日本スポーツグランプリ受賞者の決定について（岡崎専務理事）

本賞は、長年にわたりスポーツを実践し、現在も継続して活動され、当該スポーツにおいて、中高年齢層の顕著な記録や実績を挙げるなど、国内外で高い評価を得た方に対して、その功績をたたえるとともに、我が国における生涯スポーツ振興の更なる醸成に資することを目的として、本年度第1回の顕彰を実施するものである。

この度、加盟団体等より31名の候補者の推薦があり、作業部会及び選考委員会において、候補者の功績評価と絞り込み作業を行った。

審査を進めるにあたり、作業部会及び選考委員会では、受賞候補者の人数

について、今回が初めての表彰であること、生涯スポーツに係る最高の表彰としての重みを考慮することなどにより、「5名程度」とした。また、「年齢は原則として70歳以上で、活動歴は概ね50年以上」を、審査の基礎的な基準とした。

候補者の功績内容については、顕彰規程第2条(1)の区分では候補者の「年齢の高さと活動歴の長さ」、(2)の区分では「世界記録等の樹立と現在の保持状況」と併せて「年齢の高さと活動歴の長さ」、(3)の区分では「前人未踏の高齢者記録等の達成状況」と併せて「年齢の高さと活動歴の長さ」を、功績内容の評価と対比の際の優先基準とした。

また、作業部会で高い評価を得た9名の平均年齢が85.6歳であったことから、選考委員会では、(1)の区分では「概ね85歳以上」、(2)と(3)の区分では「80歳前後」を年齢に関する優先基準として選考を行い、資料記載の1～6までの6名を選考した。なお、7の原口幸三氏については、年齢・記録とも申し分のない実績であるが、選考委員会において、活動歴が「若干、満たない」との意見もあり、候補者としての是非について、森会長と大谷選考委員会委員長に一任された結果、今回の候補者の中で96歳の最高齢者であること、90歳と95歳で、2回世界記録を樹立している実績があることから、受賞候補者として選考したことについて説明の後諮り、男性6名、女性1名の計7名を受賞者として承認した。

承認後、表彰式を9月30日に、兵庫国体の役員懇談会において実施することを報告。

報告事項

1. 国際交流事業関係 (瀬尾委員長)

- ・ 第16回日・韓・中ジュニア交流競技会の開催地について
平成20(2008)年度の「第16回日・韓・中ジュニア交流競技会」は日本での開催となることから、その受け入れについて、千葉県へ依頼をしていたところ、この度、千葉県体育協会より受け入れを承諾する旨の回答があったことについて報告。

2. その他 (岡崎専務理事)

- ・ 「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」の発行について
大塚製薬の協賛を得て、平成6年より発行している「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」の改訂版を作成したこと、また、改訂版から有料(作成費等実費)とすることについて報告。

以上の諸報告をいずれも了承後、次回理事会は9月6日(水)14時から開催する旨を報告し、14時35分閉会。